

齡者より高く、前期高齢者でも後期高齢者でも男性が女性より高かった（すべて1%水準）。最後にデイケアは男性後期高齢者に多く（2.4%）、男性前期高齢者との間で有意差（5%レベル）があった。

次に地域差について検討する。

「農作業」は特に地域差が大きく、A地区ではどのグループでも50%台にあるのに対しB地区では2.6%~8.7%の範囲であり、4群のすべてで高度の有意の差（1%水準）を示す。またA地区内だけを見れば外出の目的の順位の中で「農作業」は1、2位を争う位置にある（女性後期高齢者のみは3位）。

農作業に次いで地域差が目立つのは「散歩」であり、これは逆にB地区で多く、ほとんどのグループで2倍以上の差がある（女性後期高齢者では約36%増し）。統計的にはこの差は、男性の両群および女性後期高齢者では高度の有意（1%水準）であり、女性の前期高齢者では5%~10%の範囲の有意水準であった。

「買い物」の比率は全グループでB地区が高いが、統計的には男性前期高齢者と女性後期高齢者では高度の有意差（1%水準）、女性後期高齢者では有意差（5%水準）であり、男性後期高齢者のみでは有意ではなかった。

「病院・医院への通院」も全グループでB地区が高いが、統計的には男性後期高齢者では高度の有意差（1%水準）、女性前期高齢者と男性後期高齢者とは有意（5%水準）、女性後期高齢者では差の傾向（5%~10%水準）を示した。

「趣味・スポーツ」なども全グループで

B地区が多いように見えるが、統計的には女性前期高齢者で高度の有意差（1%水準）、男性の前期高齢者と後期高齢者で有意差（5%）を示し、女性後期高齢者では差の傾向（5%~10%）を示した。

「老人クラブ」は前記のように後期高齢者で有意に多く、一見B地区に多いように見えるが有意差はなかった。

「地域（町内会など）」は一見A地区が多い（女性後期高齢者を除く）ように見えるが、男性前期高齢者で有意（5%水準）の地域差があるのみであった。

以上、外出の目的の分析からは参加のあり方に関して、年齢別、男女別、地域別の非常に興味ある結果が得られた。それをまとめると概略次のようであった。

- (1) 地域別を重視して全体を見ると、外出目的のトップ3項目は4グループで同じであり、「買い物」、「病院・医院への通院」、「散歩」の順である。しかし地区別に見るとA地区では「農作業」（全体としては7位）がトップ3位のうちに入り、B地区と高度に有意の差を示す。（B地区のみでは3項目の順位は変わらない）
- (2) 「買い物」は女性前期高齢者でもっとも比率が高かった。
- (3) 「病院・医院への通院」は男女とも後期高齢者で多く、またB地区で多かった。
- (4) 「散歩」は農作業とは逆にB地区で高かった。
- (5) 「老人クラブ」は男女とも後期高齢者で多く、地域差はなかった。
- (6) 「仕事」は前期高齢者が後期高齢者よ

り高く、男性で女性より高かった。

以上は介護予防の戦略を検討するにあたって貴重な資料を提供するものといえよう。

6) 外出の方法

外出の目的と関連が深いので外出の方法についてたずねた。これは「参加の具体像としての活動」の状況とみることができる。

その結果を回答者別および項目別に集計したものを表9-1, 2に示す。項目別(表9-2)における比率は総人員に対するものであり、

複数回答可であるため合計は100%を越す。

前期高齢者より後期高齢者に生活機能低下が多くみられるため、両表とも後期高齢者計の割合の多い順に並べた。

前期男性高齢者では、割合の多い順に「車を運転」は80.6%、「歩いていく」は43.1%、「公共交通機関(バス、電車)」は31.0%、「家族の車で」は16.4%、「自転車」は9.9%、「バイク」は6.0%、「タクシー」は4.3%、「電動三輪車」は1.3%、「車いす」は0.0%、「その他」は0.9%、「外出していない」は0.4%であった。

表8-1 外出の目的(回答者別)

	前期			後期		
	男性	女性	計	男性	女性	計
病院・医院への通院	6 (2.6%)	3 (1.1%)	9 (1.8%)	7 (5.5%)	15 (8.0%)	22 (7.0%)
買い物	4 (1.7%)	15 (5.6%)	19 (3.8%)	4 (3.1%)	5 (2.7%)	9 (2.9%)
農作業	7 (3.0%)	2 (0.8%)	9 (1.8%)	3 (2.4%)	3 (1.6%)	6 (1.9%)
趣味・スポーツなど	3 (1.3%)	0 (0.0%)	3 (0.6%)	3 (2.4%)	0 (0.0%)	3 (1.0%)
仕事(通勤など)	15 (6.5%)	3 (1.1%)	18 (3.6%)	1 (0.8%)	0 (0.0%)	1 (0.3%)
散歩	2 (0.9%)	2 (0.8%)	4 (0.8%)	1 (0.8%)	0 (0.0%)	1 (0.3%)
親類宅	0 (0.0%)	1 (0.4%)	1 (0.2%)	0 (0.0%)	1 (0.5%)	1 (0.3%)
地域での活動 (町内会など)	0 (0.0%)	1 (0.4%)	1 (0.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
その他	3 (1.3%)	0 (0.0%)	3 (0.6%)	1 (0.8%)	2 (1.1%)	3 (1.0%)
複数回答	190 (81.9%)	233 (87.6%)	423 (84.9%)	101 (79.5%)	156 (83.0%)	257 (81.6%)
外出していない	1 (0.4%)	1 (0.4%)	2 (0.4%)	2 (1.6%)	4 (2.1%)	6 (1.9%)
返答なし	1 (0.4%)	5 (1.9%)	6 (1.2%)	4 (3.1%)	2 (1.1%)	6 (1.9%)
計	232 (100%)	266 (100%)	498 (100%)	127 (100%)	188 (100%)	315 (100%)

表8-2 外出の目的(項目別)

	前期高齢者							後期高齢者						
	男性			女性			計	男性			女性			計
	A	B	計	A	B	計		A	B	計	A	B	計	
買い物	49 59.8	113 75.3	162 69.8	71 80.7	161 90.4	232 87.2	394 79.1	28 56.0	54 70.1	82 64.6	40 54.8	91 79.1	131 69.7	213 67.6
病院・医院への通院	26 31.7	83 55.3	109 47.0	37 42.0	99 55.6	136 51.1	245 49.2	23 46.0	52 67.5	75 59.1	43 58.9	82 71.3	125 66.5	200 63.5
散歩	21 25.6	83 55.3	104 44.8	31 35.2	85 47.8	116 43.6	220 44.2	10 20.0	44 57.1	54 42.5	14 19.2	46 40.0	60 31.9	114 36.2
親類宅	21 25.6	47 31.3	68 29.3	41 46.6	68 38.2	109 41.0	177 35.5	16 32.0	19 24.7	35 27.6	18 24.7	33 28.7	51 27.1	86 27.3
友人宅	17 20.7	31 20.7	48 20.7	33 37.5	65 36.5	98 36.8	146 29.3	13 26.0	11 14.3	24 18.9	23 31.5	31 27.0	54 28.7	78 24.8
老人クラブ	9 11.0	14 9.3	23 9.9	13 14.8	26 14.6	39 14.7	62 12.4	11 22.0	21 27.3	32 25.2	13 17.8	33 28.7	46 24.5	78 24.8
農作業	48 58.5	13 8.7	61 26.3	44 50.0	6 3.4	50 18.8	111 22.3	28 56.0	5 6.5	33 26.0	37 50.7	3 2.6	40 21.3	73 23.2
趣味・スポーツなど	26 31.7	73 48.7	99 42.7	19 21.6	76 42.7	95 35.7	194 39.0	8 16.0	24 31.2	32 25.2	12 16.4	26 22.6	38 20.2	70 22.2
地域での活動(町内会など)	23 28.0	24 16.0	47 20.3	17 19.3	29 16.3	46 17.3	93 18.7	10 20.0	14 18.2	24 18.9	5 6.8	17 14.8	22 11.7	46 14.6
仕事(通勤など)	24 29.3	52 34.7	76 32.8	16 18.2	24 13.5	40 15.0	116 23.3	4 8.0	5 6.5	9 7.1	0 0.0	2 1.7	2 1.1	11 3.5
デイサービス	0 0.0	1 0.7	1 0.4	0 0.0	1 0.6	1 0.4	2 0.4	1 2.0	3 3.9	4 3.1	1 1.4	2 1.7	3 1.6	7 2.2
生きがいデイ	1 1.2	1 0.7	1 0.9	3 3.4	2 1.1	5 1.9	7 1.4	1 2.0	1 1.3	2 1.6	0 0.0	4 3.5	4 2.1	6 1.9
デイケア	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 0.6	1 0.4	1 0.2	1 2.0	2 2.6	3 2.4	1 1.4	2 1.7	3 1.6	6 1.9
その他	3 3.7	13 8.7	16 6.9	4 4.5	6 3.4	10 3.8	26 5.2	4 8.0	5 6.5	9 7.1	4 5.5	7 6.1	11 5.9	20 6.3
外出していない	1 1.2	0 0.0	1 0.4	1 1.1	0 0.0	1 0.4	2 0.4	0 0.0	2 2.6	2 1.6	2 2.7	2 1.7	4 2.1	6 1.9
返答なし	0 0.0	1 0.7	1 0.4	1 1.1	4 2.2	5 1.9	6 1.2	3 6.0	1 1.3	4 3.1	1 1.4	1 0.9	2 1.1	6 1.9
計(回答者数)	82 100	150 100	232 100	88 100	178 100	266 100	498 100	50 100	77 100	127 100	73 100	115 100	188 100	315 100

前期女性高齢者では、割合の多い順に「公共交通機関(バス、電車)」は57.9%、「歩いていく」は53.8%、「家族の車で」は52.6%、「車を運転」は22.6%、「自転車」は8.3%、「タクシー」は5.3%、「バイク」は4.9%、「電動三輪車」は0.8%、「車いす」は0.4%、「その他」は0.4%、「外出していない」は0であった。

後期男性高齢者では、割合の多い順に「車

を運転」は52.0%、「歩いていく」は44.1%、「公共交通機関(バス、電車)」は36.2%、「家族の車で」は18.9%、「バイク」は10.2%、「タクシー」は7.1%、「自転車」は7.1%、「電動三輪車」は2.4%、「車いす」は0.0%、「その他」は0.8%、「外出していない」は1.6%であった。

後期女性高齢者では、割合の多い順に「家族の車で」は56.9%、「歩いていく」は

50.5%、「公共交通機関（バス、電車）」は47.9%、「タクシー」は13.3%、「車を運転」は4.3%、「自転車」は3.2%、「車いす」は2.7%、「バイク」は0.5%、「電動三輪車」は0、「その他」は2.7%、「外出していない」は1.1%であった。

まずもっとも目を引くのは「車を運転」であり、男性前期高齢者では80.6%にのぼり、「歩いていく」（43.1%）の2倍近い。男性後期高齢者でもこれは60.0%であり、「歩いていく」（34.0%）のやはり2倍近い。女性でも車を運転する人は決して少なくないが、前期高齢者でも後期高齢者でも男女間の差は高度に有意（1%水準）である。また年齢の影響も大きく、男女とも後期高齢者では前期高齢者よりも少なく、その差は高度に有意である。

これに対し「家族の車で」は前期高齢者、後期高齢者とも女性に多く、これも高度に有意である。

「歩いていく」はグループ間の差は少なく、唯一前期高齢者で男性が女性より少ない（5%水準）。

「自転車」は後期高齢者では少なくなるが、統計的には女性の前期高齢者、後期高齢者間で5%水準の有意差があるのみであった。

「バイク」は女性後期高齢者を除けば5～10%の範囲で用いられており、後期高齢者の男女間に高度に有意な差（1%水準）があった。

「車いす」使用者は全体としては少ないが、女性後期高齢者に多かった（女性前期高齢者との間で1%水準の有意差）。

地域差を見ると、「車を運転」は全体とし

て女性では少ないが、A地区の女性はB地区よりも明らかに多く、その差は前期高齢者では1%水準、後期高齢者で5%水準であった。

「歩いていく」は全般的にA地区の方が少ないように見える。しかし統計的に男性前期高齢者で高度の有意差（1%水準）、男性後期高齢者で有意の傾向（5-10%）が見られたのみで、女性では地域差はなかった。

「家族の車で」は先に述べたように女性に多いが、女性後期高齢者では地域差があり、A地区が多かった（5%水準の有意差）。女性前期高齢者では差がなかった。

以上をまとめると、外出方法で注目されるのは男性では「車を運転」して外出するものが多く、前期高齢者で特に多く8割にのぼること、また女性でもA地区ではB地区より多いことである。この裏返しとして男性前期高齢者では「歩いていく」が女性より少なく、特にA地区で少なかった。

反面女性では「家族の車で」が多く、中でも女性後期高齢者ではA地区が多かった。

この結果はA地区では外出に車にたよる程度が高いことをうかがわせるものであり、介護予防の計画の上でも考慮すべき点があきらかになったものといえよう。

表9-1 外出の方法(回答者別)

	前期			後期		
	男性	女性	計	男性	女性	計
歩いていく	5 (2.2%)	6 (2.3%)	11 (2.2%)	5 (3.9%)	14 (7.4%)	19 (6.0%)
車を運転	89 (38.4%)	23 (8.6%)	112 (22.5%)	27 (21.3%)	5 (2.7%)	32 (10.2%)
家族の車で	3 (1.3%)	26 (9.8%)	29 (5.8%)	6 (4.7%)	33 (17.6%)	39 (12.4%)
公共交通機関 (バス、電車)	4 (1.7%)	9 (3.4%)	13 (2.6%)	7 (5.5%)	17 (9.0%)	24 (7.6%)
タクシー	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.8%)	2 (1.1%)	3 (1.0%)
自転車	0 (0.0%)	2 (0.8%)	2 (0.4%)	2 (1.6%)	0 (0.0%)	2 (0.6%)
バイク	2 (0.9%)	4 (1.5%)	6 (1.2%)	3 (2.4%)	1 (0.5%)	4 (1.3%)
電動三輪車	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.8%)	0 (0.0%)	1 (0.3%)
車いす	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
その他	1 (0.4%)	0 (0.0%)	1 (0.2%)	0 (0.0%)	1 (0.5%)	1 (0.3%)
複数回答	126 (54.3%)	190 (71.4%)	316 (63.5%)	70 (55.1%)	112 (59.6%)	182 (57.8%)
外出していない	1 (0.4%)	0 (0.0%)	1 (0.2%)	2 (1.6%)	2 (1.1%)	4 (1.3%)
返答なし	1 (0.4%)	6 (2.3%)	7 (1.4%)	3 (2.4%)	1 (0.5%)	4 (1.3%)
計	232 (100%)	266 (100%)	498 (100%)	127 (100%)	188 (100%)	315 (100%)

表9-2 外出の方法(項目別)

	前期高齢者							後期高齢者						
	男性			女性			計	男性			女性			計
	A	B	計	A	B	計		A	B	計	A	B	計	
歩いていく	24 29.3	76 50.7	100 43.1	41 46.6	102 57.3	143 53.8	243 48.8	17 34.0	39 50.6	56 44.1	34 46.6	61 53.0	95 50.5	151 47.9
公共交通機関(バス、電車)	12 14.6	60 40.0	72 31.0	32 36.4	122 68.5	154 57.9	226 45.4	6 12.0	40 51.9	46 36.2	21 28.8	69 60.0	90 47.9	136 43.2
家族の車で	9 11.0	29 19.3	38 16.4	46 52.3	94 52.8	140 52.6	178 35.7	11 22.0	13 16.9	24 18.9	50 68.5	57 49.6	107 56.9	131 41.6
車を運転	68 82.9	119 79.3	187 80.6	32 36.4	28 15.7	60 22.6	247 49.6	30 60.0	36 46.8	66 52.0	6 8.2	2 1.7	8 4.3	74 23.5
タクシー	2 2.4	8 5.3	10 4.3	2 2.3	12 6.7	14 5.3	24 4.8	2 4.0	7 9.1	9 7.1	5 6.8	20 17.4	25 13.3	34 10.8
自転車	11 13.4	12 8.0	23 9.9	10 11.4	12 6.7	22 8.3	45 9.0	4 8.0	5 6.5	9 7.1	4 5.5	2 1.7	6 3.2	15 4.8
バイク	5 6.1	9 6.0	14 6.0	5 5.7	8 4.5	13 4.9	27 5.4	8 16.0	5 6.5	13 10.2	0 0.0	1 0.9	1 0.5	14 4.4
車いす	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 1.1	0 0.0	1 0.4	1 0.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 4.1	2 1.7	5 2.7	5 1.6
電動三輪車	0 0.0	3 2.0	3 1.3	2 2.3	0 0.0	2 0.8	5 1.0	2 4.0	1 1.3	3 2.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 1.0
その他	2 2.4	0 0.0	2 0.9	0 0.0	1 0.6	1 0.4	3 0.6	0 0.0	1 1.3	1 0.8	3 4.1	2 1.7	5 2.7	6 1.9
外出していない	1 1.2	0 0.0	1 0.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 0.2	0 0.0	2 2.6	2 1.6	0 0.0	2 1.7	2 1.1	4 1.3
返答なし	0 0.0	1 0.7	1 0.4	1 1.1	5 2.8	6 2.3	7 1.4	2 4.0	1 1.3	3 2.4	1 1.4	0 0.0	1 0.5	4 1.3
計(回答者数)	82 100	150 100	232 100	88 100	178 100	266 100	498 100	50 100	77 100	127 100	73 100	115 100	188 100	315 100

Ⅲ. 生活の活発さの状況

介護予防との関連において、生活の活発さは非常に重要である。それは「生活不活発病」（「廃用症候群」）は、その名の示すように生活が不活発なことが原因となって起り、心身のほとんどあらゆる機能が低下し、それにより種々の「活動」や「参加」が困難になるからであり、それを予防するのが介護予防だからである。

1) 日中の生活の活発さ

日中どのくらい体を動かしているかの現在の状態についての質問の回答は、図8、表10に示す通りであった。

「外でもよく動いている」は前期男性高齢者では72.4%、同女性では55.3%、後期男性高齢者では50.4%、同女性では33.0%であった。

「家の中ではよく動いている」は前期男性高齢者では10.3%、同女性では27.4%、後期男性高齢者では15.0%、同女性では30.9%であった。

「座っていることが多い」は前期男性高齢者では10.8%、同女性では4.5%、後期男性高齢者では19.7%、同女性では14.4%であり、「時々横になっている」は前期男性高齢者では2.6%、同女性では7.1%、後期男性高齢者では9.4%、同女性では16.0%であった。

「ほとんど横になっている」は前期男性高齢者では0.9%、同女性では1.5%、後期男性高齢者では1.6%、同女性では2.7%であった。なお重複回答が少数ながらあり、その内容は表10に示す通りであった。

図8を一見してもわかるように年齢層・性別による差は非常に大きく、統計的に高

度に差は示す。すなわち男性の前期高齢者と後期高齢者の間、女性の前期高齢者と後期高齢者の間、また前期高齢者の男女間と後期高齢者の男女間にはいずれも危険率1%未満の高度に有意の差がある。

また後期高齢者では男女ともに有意(5%水準)の地域差が認められた。すなわち男性後期高齢者では「外でもよく動いている」がA地区64.0%対41.6%とA地区の方が多く、女性後期高齢者ではA地区46.6%対24.3%とやはりA地区の方が多い。

逆にいえばB地区に住む女性高齢者では生活がもっとも不活発になっており、この群では全8群の中で比較すると「外でもよく働いている」がもっとも少なく(24.3%)、「家の中ではよく動いている」がもっとも多く(38.3%)、また「時々横になっている」(17.4%)、「ほとんど横になっている」(2.6%)がもっとも多い。

逆に「家の中ではよく動いている」は男性より女性、前期高齢者より後期高齢者、またA地区よりB地区に多くみられ、仮に「外でもよく動いている」と「家の中ではよく動いている」とを合算すると年齢層別、性別、また地域により差は明瞭でなくなる。このことは同じ「よく動いている」でも、「外でも」と「家の中では」では意味が大きく違い、この2つを区別して捉えることが重要であることを示している。

これは前に述べた仕事、特に農業に従事しているものがA地区に多いことと深い関係があるものと考えられる。

以上から介護予防にとって重要な意味をもつ「生活の活発さ」における年齢差・性別・地域差の存在を確認することができた。

図8 日中の生活の活発さ

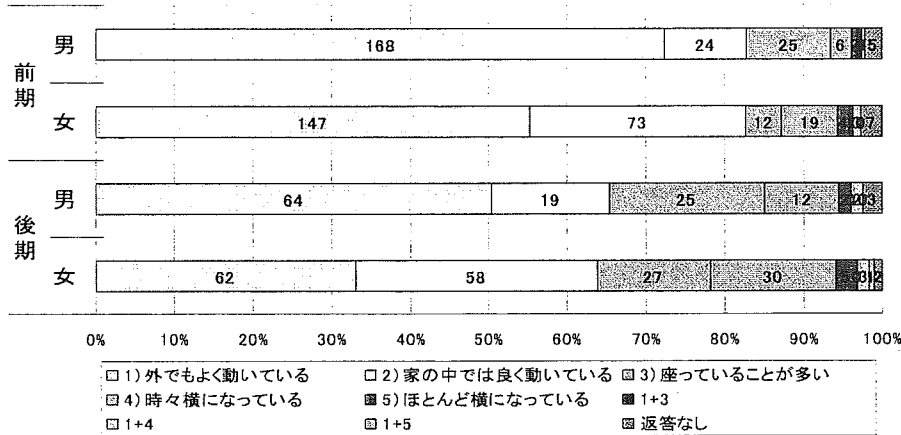


表10 日中の生活の活発さ

	前期高齢者							後期高齢者						
	男性			女性			計	男性			女性			計
	A	B	計	A	B	計		A	B	計	A	B	計	
1)外でもよく動いている	63	105	168	55	92	147	315	32	32	64	34	28	62	126
2)家の中ではよく動いている	7	17	24	21	52	73	97	3	16	19	14	44	58	77
3)座っていることが多い	7	18	25	2	10	12	37	7	18	25	11	16	27	52
4)時々横になっている	1	5	6	6	13	19	25	3	9	12	10	20	30	42
5)ほとんど横になっている	0	2	2	1	3	4	6	2	0	2	2	3	5	7
1+3	0	1	1	0	1	1	2	0	0	0	0	0	0	0
1+4	0	0	0	2	1	3	3	1	1	2	1	2	3	5
1+5	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1	0	1	1
返答なし	3	2	5	1	6	7	12	2	1	3	0	2	2	5
計	82	150	232	88	178	266	498	50	77	127	73	115	188	315
	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100

2) 外出頻度

生活の活発を如実に示すものとして、現在の外出の回数についての質問を行った。その回答は、図9、表11に示す通りであった。

「ほぼ毎日」は前期男性高齢者では65.5%、同女性では53.8%、後期男性高齢者では48.0%、同女性では31.9%であった。

「週3回以上」は前期男性高齢者では20.3%、同女性では25.2%、後期男性高齢

者では 22.8%、同女性では 26.1%であった。

「週 1 回以上」は前期男性高齢者では 7.8%、同女性では 12.0%、後期男性高齢者では 10.2%、同女性では 24.5%であった。

「月 1 回以上」は前期男性高齢者では 2.6%、同女性では 3.0%、後期男性高齢者では 6.3%、同女性では 9.6%であった。

「ほとんど外出していない」は前期男性高齢者では 2.6%、同女性では 2.3%、後期男性高齢者では 9.4%、同女性では 8.0%であった。

この結果を総括すると「ほぼ毎日」外出しているものは男性前期高齢者で 65.5% ともっとも多く、女性後期高齢者で 31.9% ともっとも少ない。統計的検定でも、男性高齢者の前期対後期、女性高齢者の前期対後期、また後期高齢者の中での男性対女性では、危険率 1%未満の高度の有意の差があり、前期の男性対女性では同 5~10%の範囲の差の傾向があった。

更に地域差を検討すると、女性についてだけ有意の差がみられた（前期高齢者で 1%水準、後期高齢者で 5%水準）。すなわち、女性前期高齢者では「ほぼ毎日」外出しているものは、A地区 47.7%対B地区 56.7%とB地区が多く、女性後期高齢者でも同様に 28.8%対 33.3%とB地区が多かった。

この結果は先に述べた日中の生活の活発さとは逆の結果であり、外出の頻度と外出して行う身体の動きの程度とは必ずしも一致しないことを示している。即ちA地区では農業を目的とする外出が多く、回数はそれほど多くはないが、1回の外出における身体の動きの活発さは大きく、一方B地区では買物・散歩・趣味等の目的の外出が多く、回数は多いが、身体の動きの程度はそれほど高くないと解釈することが可能である。

図9 外出頻度

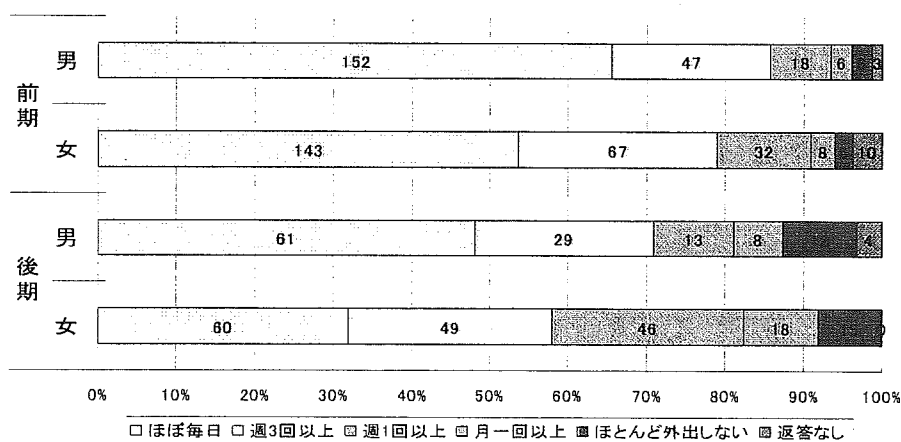


表 1 1 外出頻度

	前期高齢者							後期高齢者						
	男性			女性			計	男性			女性			計
	A	B	計	A	B	計		A	B	計	A	B	計	
ほぼ毎日	48 58.5	104 69.3	152 65.5	42 47.7	101 56.7	143 53.8	295 59.2	25 50.0	36 46.8	61 48.0	21 28.8	39 33.9	60 31.9	121 38.4
週3回以上	18 22.0	29 19.3	47 20.3	16 18.2	51 28.7	67 25.2	114 22.9	6 12.0	23 29.9	29 22.8	13 17.8	36 31.3	49 26.1	78 24.8
週1回以上	9 11.0	9 6.0	18 7.8	19 21.6	13 7.3	32 12.0	50 10.0	6 12.0	7 9.1	13 10.2	20 27.4	26 22.6	46 24.5	59 18.7
月一回以上	2 2.4	4 2.7	6 2.6	5 5.7	3 1.7	8 3.0	14 2.8	4 8.0	4 5.2	8 6.3	13 17.8	5 4.3	18 9.6	26 8.3
ほとんどなし	4 4.9	2 1.3	6 2.6	3 3.4	3 1.7	6 2.3	12 2.4	6 12.0	6 7.8	12 9.4	6 8.2	9 7.8	15 8.0	27 8.6
返答なし	1 1.2	2 1.3	3 1.3	3 3.4	7 3.9	10 3.8	13 2.6	3 6.0	1 1.3	4 3.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4 1.3
計	82 100	150 100	232 100	88 100	178 100	266 100	498 100	50 100	77 100	127 100	73 100	115 100	188 100	315 100

IV. 歩行困難への働きかけ

介護予防のニーズと直接関係することとして、歩行困難への有無、理由、転倒、歩行補助具の利用方法、等について調査した。

1) 歩行困難

「歩行の困難さ」の質問への回答は、図10、表12に示す通りであった。

「歩くのに難しさを感じない」は前期男性高齢者では82.8%、同女性では74.8%、後期男性高齢者では60.6%、同女性では

48.4%であった。

「歩くのに難しさを感じる」は前期男性高齢者では17.2%、同女性では24.8%、後期男性高齢者では38.6%、同女性では51.6%であった。

統計的解析では男女とも前期高齢者と後期高齢者との間には1%未満の危険率で高度の有意の差があり、前期および後期の年齢層内の男女間には5~10%の危険率で差の傾向があった。

図 1 0 歩行困難

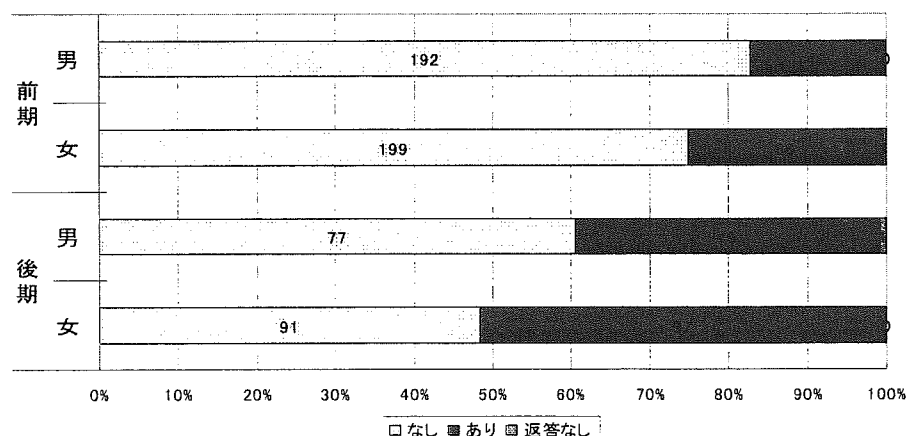


表 1 2 歩行困難

	前期			後期		
	男性	女性	計	男性	女性	計
難しさを感じない	192名 (82.8%)	199名 (74.8%)	391名 (78.5%)	77名 (60.6%)	91名 (48.4%)	168名 (53.3%)
難しさを感じる	40 (17.2%)	66 (24.8%)	106 (21.3%)	49 (38.6%)	97 (51.6%)	146 (46.3%)
返答なし	0 (0.0%)	1 (0.4%)	1 (0.2%)	1 (0.8%)	0 (0.0%)	1 (0.3%)
計	232名 (100%)	266名 (100%)	498名 (100%)	127名 (100%)	188名 (100%)	315名 (100%)

2) 歩行困難の理由

前の質問で「歩行困難有」と回答した 252 名について、歩行困難の理由（複数回答可）を項目別に集計した結果が表 1 3 である。比率は総人員に対するものであり、複数回答可であるため合計は 100% を越す。

前期男性高齢者では、割合の多い順に「足の力がおちた」は 47.5%、「腰痛」は 40.0%、「歩く速さが遅い」は 30.0%、「足の関節の痛み」は 27.5%、「つまずき易い」は 25.0%、「疲れやすい」は 22.5%、「ふらつく」は 20.0%、「耳が聞こえにくい」は 15.0%、「目が見えにくい」は 15.0%、「その他」は 10.0% であった。

前期女性高齢者では、割合の多い順に「腰痛」は 47.0%、「足の関節の痛み」は 47.0%、「歩く速さが遅い」は 34.8%、「足の力がおちた」は 33.3%、「つまずき易い」は 33.3%、「疲れやすい」は 33.3%、「ふらつく」は 13.6%、「目が見えにくい」は 10.6%、「耳が聞こえにくい」は 7.6%、「その他」は 6.1% であった。

後期男性高齢者では、割合の多い順に「足の力がおちた」は 55.1%、「歩く速さが遅い」は 42.9%、「腰痛」は 36.7%、「足の関節

の痛み」は 36.7%、「疲れやすい」は 32.7%、「耳が聞こえにくい」は 26.5%、「つまずき易い」は 20.4%、「ふらつく」は 12.2%、「目が見えにくい」は 6.1%、「その他」は 24.5% であった。

後期女性高齢者では、割合の多い順に「足の力がおちた」は 44.3%、「腰痛」は 39.2%、「歩く速さが遅い」は 38.1%、「足の関節の痛み」は 38.1%、「つまずき易い」は 36.1%、「疲れやすい」は 21.6%、「ふらつく」は 19.6%、「耳が聞こえにくい」は 17.5%、「目が見えにくい」は 13.4%、「その他」は 4.1% であった。

前期高齢者と後期高齢者を比較すると、ほぼ同様の理由であったが、足の力が落ちた人が前期高齢者では 38.7% に対し、後期高齢者では 47.9%、歩く早さが遅いのが前期高齢者では 33.0% に対し、後期高齢者では 39.7%、一方、腰痛、疲れやすいは若干後期高齢者で低下している。

なお、従来あまり指摘されなかったことであるが、「耳が聞こえにくい」ことが歩行困難の原因となっている人が前期高齢者では 10.4% に対し、後期高齢者では 20.5% であったことは注目すべきことである。

表 1 3 歩行困難の理由（歩行困難を感じた前期高齢者 106 名、後期高齢者 146 名中）

	前期			後期		
	男性	女性	計	男性	女性	計
足の力がおちた	19 (47.5%)	22 (33.3%)	41 (38.7%)	27 (55.1%)	43 (44.3%)	70 (47.9%)
腰痛	16 (40.0%)	31 (47.0%)	47 (44.3%)	18 (36.7%)	38 (39.2%)	56 (38.4%)
歩く速さが遅い	12 (30.0%)	23 (34.8%)	35 (33.0%)	21 (42.9%)	37 (38.1%)	58 (39.7%)
足の関節の痛み	11 (27.5%)	31 (47.0%)	42 (39.6%)	18 (36.7%)	37 (38.1%)	55 (37.7%)
つまづき易い	10 (25.0%)	22 (33.3%)	32 (30.2%)	10 (20.4%)	35 (36.1%)	45 (30.8%)
疲れやすい	9名 (22.5%)	22名 (33.3%)	31名 (29.2%)	16名 (32.7%)	21名 (21.6%)	37名 (25.3%)
耳が聞こえにくい	6 (15.0%)	5 (7.6%)	11 (10.4%)	13 (26.5%)	17 (17.5%)	30 (20.5%)
ふらつく	8 (20.0%)	9 (13.6%)	17 (16.0%)	6 (12.2%)	19 (19.6%)	25 (17.1%)
目が見えにくい	6 (15.0%)	7 (10.6%)	13 (12.3%)	3 (6.1%)	13 (13.4%)	16 (11.0%)
その他	4 (10.0%)	4 (6.1%)	8 (7.5%)	12 (24.5%)	4 (4.1%)	16 (11.0%)
返答なし	0 (0.0%)	3 (4.5%)	3 (2.8%)	1 (2.0%)	3 (3.1%)	4 (2.7%)
計	101名 (252.5%)	179名 (271.2%)	280名 (264.2%)	145名 (295.9%)	267名 (275.3%)	412名 (282.2%)

3) 最近 1 年間の転倒経験

最近 1 年間の転倒経験についての質問の回答は、図 1 1、表 1 4 に示す通りであった。

「転んでいない」は前期男性高齢者では 89.7%、同女性では 78.9%、後期男性高齢者では 82.7%、同女性では 72.3%であった。

「転んだ」は前期男性高齢者では 9.1%、同女性では 15.4%、後期男性高齢者では 12.6%、同女性では 25.0%であった。

統計的解析では前期高齢者でも後期高齢者でも男女間の差は 1%水準で高度に有意

であり、また男でも女でも前期高齢者と後期高齢者の間で 5%水準の有意の差があった。

すなわち転倒は前期高齢者よりも後期高齢者に多く、また男性より女性に多いことが確認された。

図 1 1 最近 1 年間の転倒経験

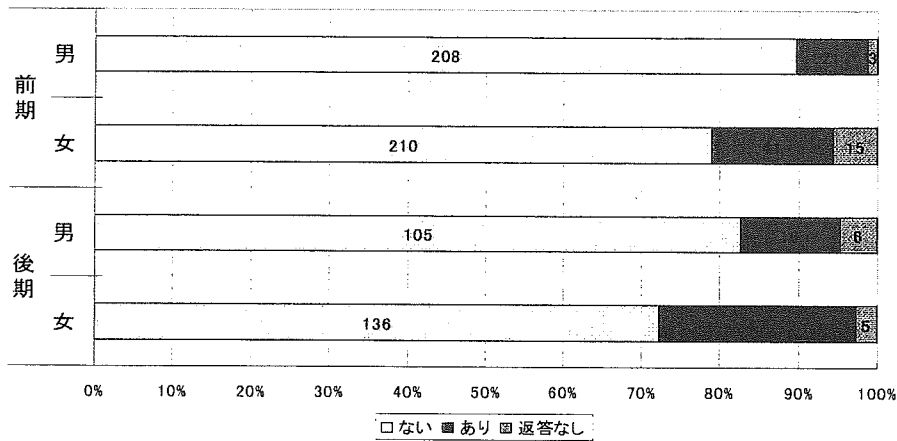


表 1 4 最近 1 年間の転倒経験

	前期			後期		
	男性	女性	計	男性	女性	計
転んでいない	208 名 (89.7%)	210 名 (78.9%)	418 名 (83.9%)	105 名 (82.7%)	136 名 (72.3%)	241 名 (76.5%)
転んだ	21 (9.1%)	41 (15.4%)	62 (12.4%)	16 (12.6%)	47 (25.0%)	63 (20.0%)
返答なし	3 (1.3%)	15 (5.6%)	18 (3.6%)	6 (4.7%)	5 (2.7%)	11 (3.5%)
計	232 名 (100%)	266 名 (100%)	498 名 (100%)	127 名 (100%)	188 名 (100%)	315 名 (100%)

3) 歩行補助具の利用状況

杖やシルバーカー（老人車）や車いすの使用状況についての質問の回答は、図 1 2、表 1 5 に示す通りであった。

「使っていない」は前期男性高齢者では 82.5%、同女性では 92.4%、後期男性高齢者では 77.6%、同女性では 61.9% であった。

「外出時は時々」は前期男性高齢者では 7.5%、同女性では 4.5%、後期男性高齢者では 6.1%、同女性では 11.3% であった。

「外出時はいつも」は前期男性高齢者では 7.5%、同女性では 3.0%、後期男性高齢

者では 12.2%、同女性では 20.6% であった。

「家の中」は女性で 1.0% で、その他の群には 0 であった。

「外出時はいつも」と「家の中」は前期男性高齢者では 2.5%、同女性では 0、後期男性高齢者では 4.1%、同女性では 5.2% であった。

図 1 2 歩行補助具の使用状況（歩行困難を感じた前期高齢者 106 名、後期高齢者 146 名中）

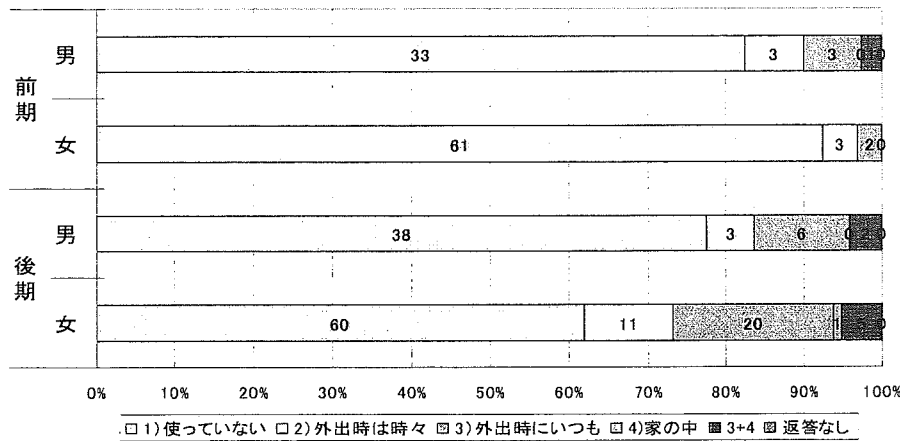


表 1 5 歩行補助具の使用状況（歩行困難を感じた前期高齢者 106 名、後期高齢者 146 名中）

	前期			後期		
	男性	女性	計	男性	女性	計
1) 使っていない	33名 (82.5%)	61名 (92.4%)	94名 (88.7%)	38名 (77.6%)	60名 (61.9%)	98名 (67.1%)
2) 外出時は時々	3 (7.5%)	3 (4.5%)	6 (5.7%)	3 (6.1%)	11 (11.3%)	14 (9.6%)
3) 外出時にいつも	3 (7.5%)	2 (3.0%)	5 (4.7%)	6 (12.2%)	20 (20.6%)	26 (17.8%)
4) 家の中	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (1.0%)	1 (0.7%)
3+4	1 (2.5%)	0 (0.0%)	1 (0.9%)	2 (4.1%)	5 (5.2%)	7 (4.8%)
返答なし	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
計	40名 (100%)	66名 (100%)	106名 (100%)	49名 (100%)	97名 (100%)	146名 (100%)

4) 周辺環境による歩行への影響

家の周りの環境（坂道、交通量が多い、等）のために歩きにくさがあるかについての質問の回答は、図 1 3、表 1 6 に示す通りであった。

「歩きにくいことはない」は前期男性高齢者では 81.9%、同女性では 68.0%、後期男性高齢者では 64.6%、同女性では 55.9% であった。

「歩きにくいことがある」は前期男性高齢者では 15.1%、同女性では 25.6%、後期

男性高齢者では 29.9%、同女性では 39.4% であった。

「歩きにくいことがある」は男性でも女性でも前期高齢者と後期高齢者の間で 1% 未満の危険率で高度の有意差があり、また前期高齢者の男女間でも同様に高度の有意差があった。

地域差もみられ、どの群でも B 地区が A 地区よりも「歩きにくいことがある」が 2～3 倍多く、男性後期高齢者では 1% 未満、男性前期高齢者、女性後期高齢者では 5%

未満、女性前期高齢者では 5～10%の危険率で有意又はその傾向であった。

B地区で歩きにくい場合が多い具体的な理由は、丘陵地帯にできた住宅地区であるために、坂道が多いことがあった。このような環境因子を考えた歩行訓練、たとえば歩行補助具の選択や付き添い方の指導が必要と考えられる。

V. 病気・心身機能等の状況

介護予防にとって病気（健康状態）、および心身機能の状態も重要である。それらに関連する事項も含め、以下のような調査を行った。

1) 病気の状況

病気の状況についての質問への回答は、図 14、表 17 に示す通りであった。

「病気はない」は前期男性高齢者では 38.8%、同女性では 43.6%、後期男性高齢者では 23.6%、同女性では 27.1%であった。「病気がある」は前期男性高齢者では 58.6%、同女性では 53.0%、後期男性高齢者では 71.7%、同女性では 71.3%であった。

以上の結果は男女差はほとんどないが、年齢層差は著明であることを示しており、前期高齢者全体と後期高齢者全体との間には危険率 1%未満の高度の有意の差がある。

すなわち「病気がある」とするものは前期高齢者全体で 55.6%、後期高齢者全体で 71.4%であり、後者で明らかに高率である。

図 13 周辺環境による歩行への影響

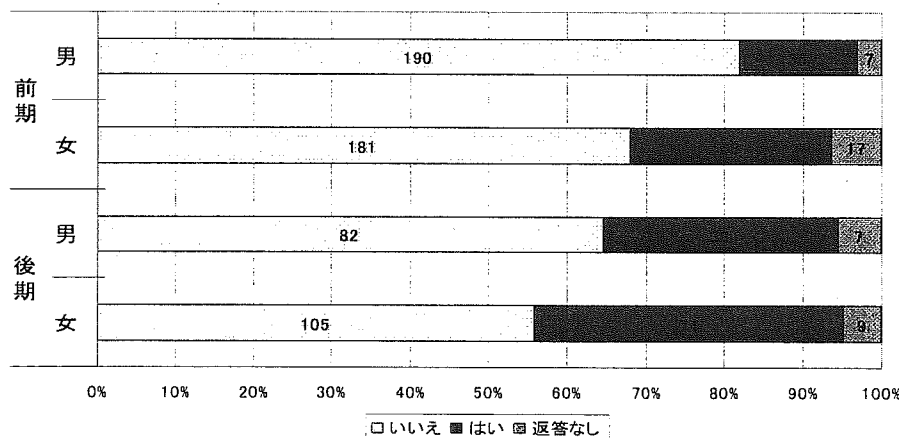


表 16 周辺環境による歩行への影響

	前期高齢者							後期高齢者						
	男性			女性			計	男性			女性			計
	A	B	計	A	B	計		A	B	計	A	B	計	
歩きにくいことはない	75	115	190	64	117	181	371	39	43	82	50	55	105	187
	91.5	76.7	81.9	72.7	65.7	68.0	74.5	78.0	55.8	64.6	68.5	47.8	55.9	59.4
歩きにくいことがある	5	30	35	16	52	68	103	6	32	38	20	54	74	112
	6.1	20.0	15.1	18.2	29.2	25.6	20.7	12.0	41.6	29.9	27.4	47.0	39.4	35.6
返答なし	2	5	7	8	9	17	24	5	2	7	3	6	9	16
	2.4	3.3	3.0	9.1	5.1	6.4	4.8	10.0	2.6	5.5	4.1	5.2	4.8	5.1
計	82	150	232	88	178	266	498	50	77	127	73	115	188	315
	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100

2) 病院への通院状況

つづけて病気が「ある」と答えた 502 名について通院の状況をたずねると図 1 5、

表 1 8 に示すように、各群とも 95～97%と、ほとんど全員が通院しており、通院していないのは極めて僅かであった。

図 1 4 病気の状況

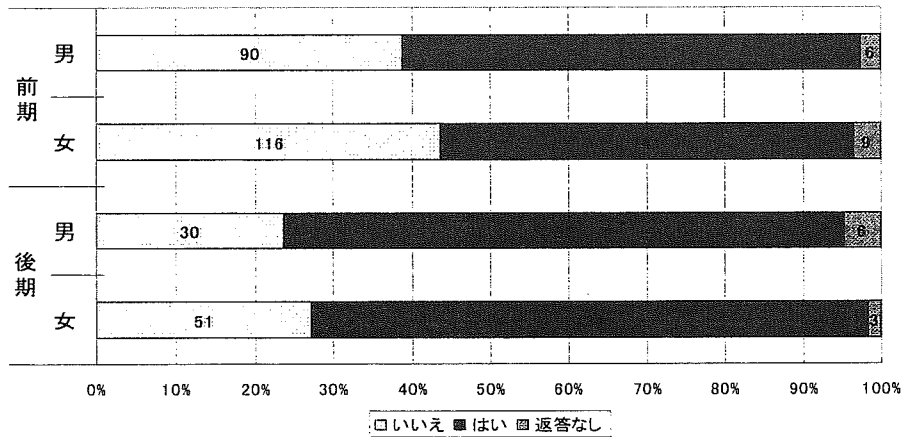


表 1 7 病気の状況

	前期			後期		
	男性	女性	計	男性	女性	計
病気はない	90名 (38.8%)	116名 (43.6%)	206名 (41.4%)	30名 (23.6%)	51名 (27.1%)	81名 (25.7%)
病気がある	136 (58.6%)	141 (53.0%)	277 (55.6%)	91 (71.7%)	134 (71.3%)	225 (71.4%)
回答なし	6 (2.6%)	9 (3.4%)	15 (3.0%)	6 (4.7%)	3 (1.6%)	9 (2.9%)
計	232名 (100%)	266名 (100%)	498名 (100%)	127名 (100%)	188名 (100%)	315名 (100%)

図 1 5 病院への通院状況

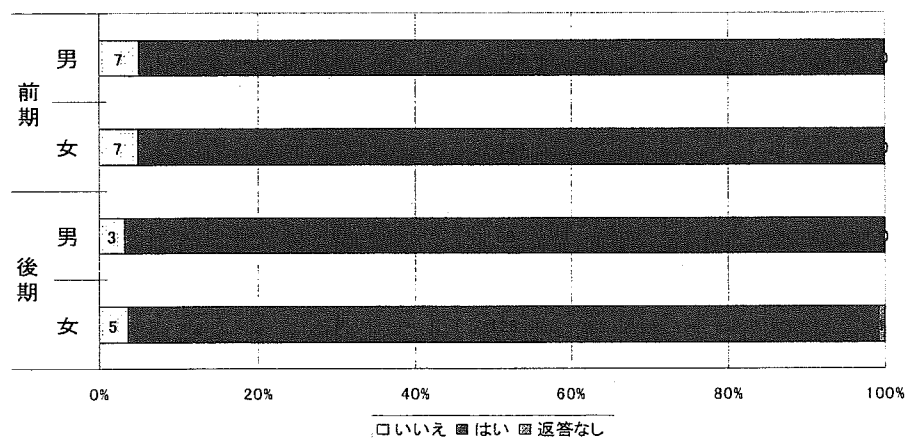


表 1 8 病院への通院状況

	前期			後期		
	男性	女性	計	男性	女性	計
通院していない	7名 (5.1%)	7名 (5.0%)	14名 (5.1%)	3名 (3.3%)	5名 (3.7%)	8名 (3.6%)
通院している	129 (94.9%)	134 (95.0%)	263 (94.9%)	88 (96.7%)	128 (95.5%)	216 (96.0%)
返答なし	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.7%)	1 (0.4%)
計	136名 (100%)	141名 (100%)	277名 (100%)	91名 (100%)	134名 (100%)	225名 (100%)

3) 体などの働きの不自由なところ

体や頭の働きの不自由、また体の一部の切断などがあるかどうかについて複数回答可で調べた結果を表 1 9 に示す。比率は総人員に対するものであり、複数回答可であるため合計は 100% を越す。

前期高齢者より後期高齢者に生活機能低下がみられるため、表は後期高齢者計の割合の多い順に並べた。

前期男性高齢者では、「特になし」は 66.8% で、割合の多い順に「足の動き」は 14.7%、「物を見ること」は 11.2%、「音を聞くこと」は 7.8%、「手の動き」は 7.3%、「声を出して話すこと」は 2.2%、「うつ病的傾向」は 0.9%、「失禁」は 0.9%、「認知症(ボケ)」は 0.4%、「体の一部の切断」は 0.4%、「その他」は 1.3% であった。

前期女性高齢者では、「特になし」は 71.8% で、割合の多い順に「足の動き」は 16.2%、「物を見ること」は 6.0%、「手の動き」は 5.6%、「音を聞くこと」は 3.8%、「声を出して話すこと」は 0.8%、「うつ病的傾向」は 0.8%、「失禁」は 0.8%、「認知症(ボケ)」は 0.4%、「体の一部の切断」は 0.0%、「その他」は 1.9% であった。

後期男性高齢者では、「特になし」は 57.5% で、割合の多い順に「足の動き」は 22.0%、「音を聞くこと」は 12.6%、「物を見ること」は 11.8%、「声を出して話すこと」は 3.9%、「手の動き」は 3.1%、「うつ病的傾向」は 2.4%、「認知症(ボケ)」は 2.4%、「体の一部の切断」は 2.4%、「失禁」は 1.6%、「その他」は 1.6% であった。

後期女性高齢者では、「特になし」は 44.7% で、割合の多い順に「足の動き」は 34.0%、「物を見ること」は 14.9%、「音を聞くこと」は 12.2%、「手の動き」は 10.6%、「声を出して話すこと」は 2.1%、「失禁」は 2.1%、「うつ病的傾向」は 1.6%、「認知症(ボケ)」は 1.6%、「体の一部の切断」は 1.6%、「その他」は 3.2% であった。

「特になし」は後期高齢者、特に女性で少ない傾向があり、高齢になるほど体などの不自由が多くなることがうかがわれた。

後期高齢者に特に多い不自由は足の動き、物を見ること、音を聞くこと等であった。

4) 身体障害者手帳の所持

「身体障害者手帳の有無」についてたずねた結果は表 2 0 に示す通りで、所持者は

全体の 8.4%であった。「手帳を持っている」は前期男性高齢者では 9.5%、同女性では 6.8%、後期男性高齢者では 7.9%、同

女性では 9.6%であり、男女別・年齢層別の差は少なかった。

表 19 体などの働きの不自由なところ

	前期			後期		
	男性	女性	計	男性	女性	計
特になし	155 名 (66.8%)	191 名 (71.8%)	346 名 (69.5%)	73 名 (57.5%)	84 名 (44.7%)	157 名 (49.8%)
足の動き	34 (14.7%)	43 (16.2%)	77 (15.5%)	28 (22.0%)	64 (34.0%)	92 (29.2%)
物を見ること	26 (11.2%)	16 (6.0%)	42 (8.4%)	15 (11.8%)	28 (14.9%)	43 (13.7%)
音を聞くこと	18 (7.8%)	10 (3.8%)	28 (5.6%)	16 (12.6%)	23 (12.2%)	39 (12.4%)
手の動き	17 (7.3%)	15 (5.6%)	32 (6.4%)	4 (3.1%)	20 (10.6%)	24 (7.6%)
声を出して話すこと	5 (2.2%)	2 (0.8%)	7 (1.4%)	5 (3.9%)	4 (2.1%)	9 (2.9%)
うつめ傾向	2 (0.9%)	2 (0.8%)	4 (0.8%)	3 (2.4%)	3 (1.6%)	6 (1.9%)
失禁	2 (0.9%)	2 (0.8%)	4 (0.8%)	2 (1.6%)	4 (2.1%)	6 (1.9%)
認知症 (ボケ)	1 (0.4%)	1 (0.4%)	2 (0.4%)	3 (2.4%)	3 (1.6%)	6 (1.9%)
体の一部の切断	1 (0.4%)	0 (0.0%)	1 (0.2%)	3 (2.4%)	3 (1.6%)	6 (1.9%)
その他	3 (1.3%)	5 (1.9%)	8 (1.6%)	2 (1.6%)	6 (3.2%)	8 (2.5%)
返答なし	5 (2.2%)	5 (1.9%)	10 (2.0%)	3 (2.4%)	4 (2.1%)	7 (2.2%)
計	269 名 (115.9%)	292 名 (109.8%)	561 名 (112.7%)	157 名 (123.6%)	246 名 (130.9%)	403 名 (127.9%)

表 20 身体障害者手帳の所持

	前期			後期		
	男性	女性	計	男性	女性	計
手帳なし	210 名 (90.5%)	245 名 (92.1%)	455 名 (91.4%)	115 名 (90.6%)	169 名 (89.9%)	284 名 (90.2%)
手帳あり	22 (9.5%)	18 (6.8%)	40 (8.0%)	10 (7.9%)	18 (9.6%)	28 (8.9%)
返答なし	0 (0.0%)	3 (1.1%)	3 (0.6%)	2 (1.6%)	1 (0.5%)	3 (1.0%)
計	232 名 (100%)	266 名 (100%)	498 名 (100%)	127 名 (100%)	188 名 (100%)	315 名 (100%)

5) 福祉用具等の使用状況

福祉用具等の使用状況についての質問への回答は、表2-1に示す通りであった。前期高齢者より後期高齢者に生活機能低下がみられるため、表は後期高齢者計の割合の多い順に並べた。

前期男性高齢者では、割合の多い順に「補聴器」は5.2%、「装具」は1.3%、「白杖」は0.9%、「しびん」は0.9%、「オムツ」は0.4%、「電動三輪車」は0.4%、「電動車いす」は0.4%、「義足(切断の場合)」は0.4%、「ポータブルトイレ」は0.0%、「義手」は0であった。

前期女性高齢者では、割合の多い順に「補聴器」は2.6%、「ポータブルトイレ」は1.5%、「オムツ」は0.8%、「白杖」は0.4%、

「しびん」は0.4%、「電動三輪車」は0.4%、「電動車いす」は0.4%、「義足、義手」₂「装具」は0であった。

後期男性高齢者では、割合の多い順に「補聴器」は11.8%、「しびん」は3.9%、「ポータブルトイレ」は2.4%、「オムツ」は1.6%、「電動三輪車」は1.6%、「装具」は1.6%、「白杖」は0.8%、「電動車いす」は0.8%、「義足」は0.8%、「義手」は0であった。

後期女性高齢者では、割合の多い順に「補聴器」は5.9%、「オムツ」は4.8%、「白杖」は3.2%、「ポータブルトイレ」は1.6%、「しびん」は0.5%、「装具」は0.5%、「電動三輪車」、「電動車いす」、「義足」「義手」は0であった。

表2-1 福祉用具等の使用状況

	前期			後期		
	男性	女性	計	男性	女性	計
補聴器	12名 (5.2%)	7名 (2.6%)	19名 (3.8%)	15名 (11.8%)	11名 (5.9%)	26名 (8.3%)
オムツ	1 (0.4%)	2 (0.8%)	3 (0.6%)	2 (1.6%)	9 (4.8%)	11 (3.5%)
白杖	2 (0.9%)	1 (0.4%)	3 (0.6%)	1 (0.8%)	6 (3.2%)	7 (2.2%)
ポータブルトイレ	0 (0.0%)	4 (1.5%)	4 (0.8%)	3 (2.4%)	3 (1.6%)	6 (1.9%)
しびん	2 (0.9%)	1 (0.4%)	3 (0.6%)	5 (3.9%)	1 (0.5%)	6 (1.9%)
電動三輪車	1 (0.4%)	1 (0.4%)	2 (0.4%)	2 (1.6%)	0 (0.0%)	2 (0.6%)
電動車いす	1 (0.4%)	1 (0.4%)	2 (0.4%)	1 (0.8%)	0 (0.0%)	1 (0.3%)
義足(切断の場合)	1 (0.4%)	0 (0.0%)	1 (0.2%)	1 (0.8%)	0 (0.0%)	1 (0.3%)
義手	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
装具	3 (1.3%)	0 (0.0%)	3 (0.6%)	2 (1.6%)	1 (0.5%)	3 (1.0%)
返答なし	215 (92.7%)	255 (95.9%)	470 (94.4%)	100 (78.7%)	161 (85.6%)	261 (82.9%)
計	238名 (102.6%)	272名 (102.3%)	510名 (102.4%)	132名 (103.9%)	192名 (102.1%)	324名 (102.9%)

V. 家族・友人等の状況

介護予防の上でも生活機能低下の早期発見、また早期対応への協力の点で家族・友人等の人的環境因子の果たす役割は大きい。そのため以下の一連の質問を行った。

1) 家族の状況

同居している家族についての質問の回答は、図16、表22に示す通りであった。

「一人暮らし」は前期男性高齢者では、2.2%、同女性では9.8%、後期男性高齢者

では1.6%、同女性では12.2%であった。

「配偶者と二人暮らし」は前期男性高齢者では51.3%、同女性では36.1%、後期男性高齢者では43.3%、同女性では17.0%であった。「その他」は前期男性高齢者では44.0%、同女性では51.9%、後期男性高齢者では55.1%、同女性では68.6%であった。

以上から「一人暮らし」は女性に多く、「配偶者と二人暮らし」は男性に多い傾向がうかがえた。

図16 家族の状況

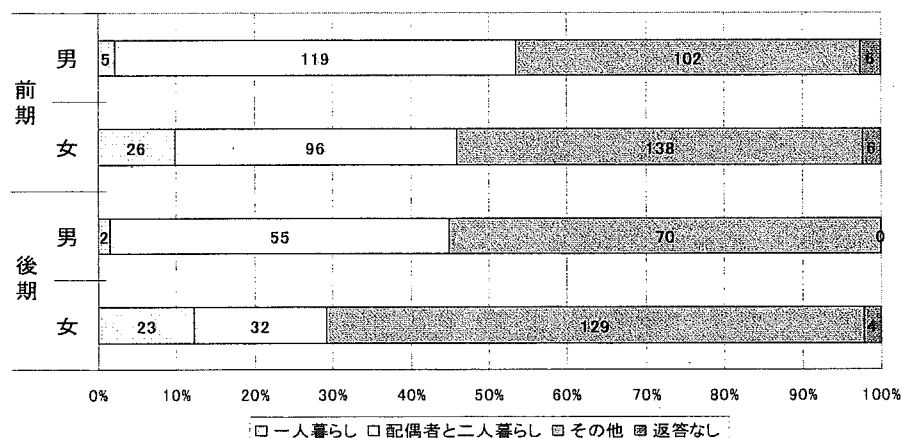


表22 家族の状況

	前期			後期		
	男性	女性	計	男性	女性	計
一人暮らし	5名 (2.2%)	26名 (9.8%)	31名 (6.2%)	2名 (1.6%)	23名 (12.2%)	25名 (7.9%)
配偶者と二人暮らし	119 (51.3%)	96 (36.1%)	215 (43.2%)	55 (43.3%)	32 (17.0%)	87 (27.6%)
その他	102 (44.0%)	138 (51.9%)	240 (48.2%)	70 (55.1%)	129 (68.6%)	199 (63.2%)
返答なし	6 (2.6%)	6 (2.3%)	12 (2.4%)	0 (0.0%)	4 (2.1%)	4 (1.3%)
計	232名 (100%)	266名 (100%)	498名 (100%)	127名 (100%)	188名 (100%)	315名 (100%)

2) 昼間自宅の家族の在宅状況

昼間自宅に家族がいるかについての質問の回答は、図17、表23に示す通りであった。

「ほとんど誰かいる」は前期男性高齢者では59.5%、同女性では50.4%、後期男性高齢者では70.9%、同女性では43.6%であった。

「半分位は誰かいる」は前期男性高齢者では24.1%、同女性では16.2%、後期男性

高齢者では17.3%、同女性では20.2%であった。

「ほとんどいない」は前期男性高齢者では11.2%、同女性では28.6%、後期男性高齢者では7.9%、同女性では34.0%であった。

以上から高齢者全体の約7割は「ほとんど」あるいは「半分くらいは」誰かがいる状態にあり、「ほとんどいない」は20～24%であった。

図17 昼間自宅の家族の在宅状況

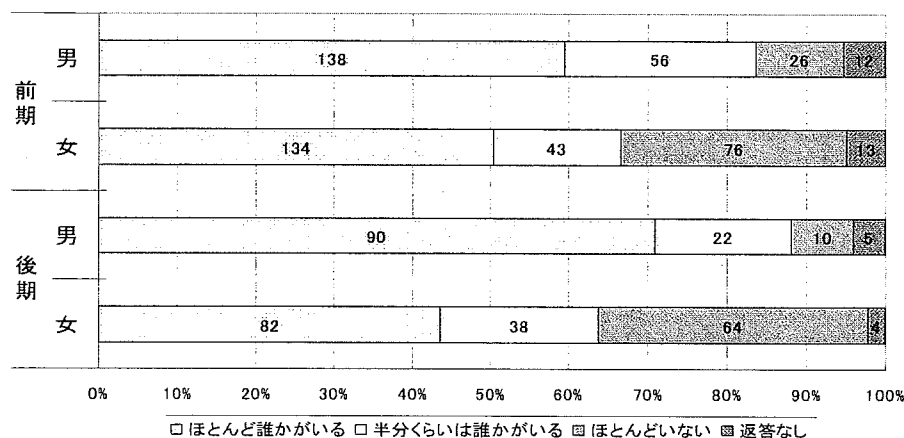


表23 昼間自宅の家族の在宅状況

	前期			後期		
	男性	女性	計	男性	女性	計
ほとんど誰かがいる	138名 (59.5%)	134名 (50.4%)	272名 (54.6%)	90名 (70.9%)	82名 (43.6%)	172名 (54.6%)
半分くらいは誰かがいる	56 (24.1%)	43 (16.2%)	99 (19.9%)	22 (17.3%)	38 (20.2%)	60 (19.0%)
ほとんどいない	26 (11.2%)	76 (28.6%)	102 (20.5%)	10 (7.9%)	64 (34.0%)	74 (23.5%)
返答なし	12 (5.2%)	13 (4.9%)	25 (5.0%)	5 (3.9%)	4 (2.1%)	9 (2.9%)
計	232名 (100%)	266名 (100%)	498名 (100%)	127名 (100%)	188名 (100%)	315名 (100%)